

トカラ列島から得られたフエダイ科魚類 オオクチハマダイ *Etelis radiosus*

畑 晴陵¹・原口百合子²・本村浩之²

¹ 〒 890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学総合研究博物館（水産学研究所）

² 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ハマダイ属 *Etelis* は世界に 4 種が知られており (Anderson, 1981), このうちハチジョウアカムツ *E. carbunculus* Cuvier, 1828, ハマダイ *E. coruscans* Valenciennes, 1862, オオクチハマダイ *E. radiosus* Anderson, 1981 の 3 種が日本から知られている (島田, 2013). オオクチハマダイはこれまで, 国内において, 伊豆諸島と沖縄諸島以南の琉球列島に分布するとされてきた (島田, 2013).

2015 年 2 月 13 日にトカラ列島北方沖で 1 個体のオオクチハマダイが採集された. 本標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Anderson (1981) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った. オオクチハマダイの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島県産の 1 標本 (KAUM-I. 68890) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, 固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており, 上記の生

鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

結果と考察

Etelis radiosus Anderson, 1981

オオクチハマダイ (Figs. 1-2; Table 1)

Etelis radiosus Anderson, 1981: 821, fig. 1 (type locality, off Galle, Sri Lanka).

標本 1 個体: KAUM-I. 68890, 体長 517.0 mm, 鹿児島県トカラ列島北方沖 (30°01'N, 130°11'E; 鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 2015 年 2 月 13 日, 釣り, 畑 晴陵.

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は細長い円筒形で, やや側扁する. 胸鰭は長く, 胸鰭長は腹鰭長の 152.3%. 胸鰭起部は鰓蓋後縁と背鰭起部の間に位置する. 胸鰭後端は背鰭第 9 棘条起部直下に達し, 第 5 軟条が最長. 胸鰭基底下端は背鰭起部直下よりも前方, 腹鰭第 1 軟条起部直上に位置する. 胸鰭基底内側は無鱗で, 基部外側の鱗は細かい. 吻端から胸鰭起部にかけての距離は体長の 30.1%. 腹鰭起部は背鰭起部よりも前方, 胸鰭第 3 軟条起部直下に位置し, 腹鰭基底後端は背鰭第 2 棘条起部直下に位置する. たたんだ腹鰭の後端は背鰭第 8 棘条起部直下を越えるが, 肛門には達しない. 吻端から腹鰭起部までの距離は体長の 34.2%. 背鰭起部は腹鰭第 2 軟条起部直上に位置し, 背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する. 背鰭は第 2 棘条が最長で, 第 2 棘条長は第 1 棘条

Hata, H., Y. Haraguchi and H. Motomura. 2015. First record of *Etelis radiosus* (Perciformes: Lutjanidae) from the Tokara Islands in the Ryukyu Islands, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 95-99.

✉ HH: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimens of *Etelis radiusus*. KAUM-I. 68890, 517.0 mm SL, off Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.



Fig. 2. Lateral view of head of *Etelis radiusus*. KAUM-I. 68890, 517.0 mm SL, off Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

長の381.3%。背鰭棘条部は後方にゆくに従い、低くなる。背鰭に深い欠刻があり、最後の背鰭棘条よりも最前の背鰭軟条の方が長い。背鰭軟条は最前のもののみが不分枝で、残りは全て分枝する。背鰭軟条部はほぼ同じ高さであるが、最後軟条のみ糸状に伸長する。吻端から背鰭起部までの距離は体長の36.3%。臀鰭起部は背鰭第5棘条起部直下に位置し、臀鰭軟条は全て分枝し、最後軟条は

糸状に伸長する。吻端から臀鰭起部までの距離は体長の67.1%。尾鰭は二叉型で深く湾入し、中央部に深い欠刻がある。尾鰭上葉は下葉よりも長く、その長さは下葉長の110.3%。総排泄孔は前後方向に長い楕円形で、臀鰭起部前方に開孔する。眼、瞳孔はともに前後方向に長い楕円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は前後方向に細長い三角形で、

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Etelis radiosus*.

| | Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan | Malaysia and Taiwan |
|--|---|---------------------|
| | KAUM-I. 68890 | n = 2 |
| Standard length (mm) | 517.0 | 174.0–346.0 |
| Counts | | |
| Dorsal-fin spines | 10 | 10 |
| Dorsal-fin rays | 11 | 11 |
| Anal-fin spines | 3 | 3 |
| Anal-fin rays | 8 | 8 |
| Pectoral-fin rays | 16 | 16 |
| Pelvic-fin spines | 1 | 1 |
| Pelvic-fin rays | 5 | 5 |
| Gill rakers-upper limb | 11 | 11 |
| Gill rakers-lower limb | 21 | 19–21 |
| Gill rakers-toral | 33 | 30–33 |
| Tubed lateral-line scales | 50 | 48–50 (48) |
| Pre-dorsal-fin scales | 18 | 7–8 (8) |
| Cheek scale rows | 8 | 8–9 |
| Caudal peduncle scales | 25 | 25 |
| Scales above lateral line | 7 | 6–7 |
| Scales below lateral line | 13 | 13 |
| Scales below lateral line between middle of dorsal fin | 4.5 | 4.5 |
| Branchiostegal rays | 7 | 7 |
| Measurements | | |
| Total length | 125.5 | 126.0 |
| Length of head | 28.4 | 30.4–32.5 |
| Length of snout | 8.7 | 8.7–8.9 |
| Horizontal diameter of fleshy orbit | 6.4 | 8.0–9.6 |
| Postorbital length of head | 14.6 | 14.6–14.8 |
| Least width of bony interorbital | 8.6 | 8.1–8.3 |
| Least suborbital width | 3.3 | 2.6–3.3 |
| Length of upper jaw | 14.1 | 15.3–16.2 |
| Length of lower jaw | 17.5 | 19.0–19.5 |
| Length of cheek | 12.4 | 9.8–12.8 |
| Height of cheek | 9.9 | 8.7–10.3 |
| Snout to angle of preopercle | 24.2 | 25.9–26.2 |
| Orbit to angle of preopercle | 13.2 | 11.7–12.9 |
| Lower jaw to junction of branchiostegal | 7.8 | 7.1–7.9 |
| Depth of body at first dorsal-fin spine | 25.9 | 27.5–30.1 |
| Length of ultimate dorsal-fin soft ray | 12.6 | 11.3–12.8 |
| Length of base of anal fin | 11.5 | 11.6–12.2 |
| Length of depressed anal fin | 22.3 | 22.8–24.6 |
| Length of third anal-fin spine | 6.4 | broken |
| Length of ultimate anal-fin soft ray | 11.3 | 11.3–12.9 |
| Length of pectoral fin | 24.9 | 25.7–26.7 |
| Length of pelvic fin | 16.3 | 16.5–17.8 |
| Length of upper lobe of caudal fin | 30.8 | 30.3 |
| Length of lower lobe of caudal fin | 28.0 | 28.6 |

後鼻孔は円形。前鼻孔の後縁に皮弁を有する。体ははがれにくい櫛鱗に被われ、峽部、前鰓蓋骨を除く鰓蓋、主上顎骨は被鱗するが、吻部、前鰓蓋骨、下顎、眼下骨は被鱗しない。背鰭前方鱗被鱗域の前縁は眼の後縁をわずかに越え、前縁中央はわずかに凹む。背鰭、腹鰭および臀鰭基底部分は被鱗しない。各鰓蓋骨後縁は円滑。鰓耙は細長い棒状で、先端は丸い。擬鰓を有する。吻端は尖り、下顎は上顎よりも突出する。口裂は大きく、主上顎骨後端は眼の中央下よりも後方に位置し、瞳孔後縁下を越える。上顎骨および下顎骨の外側には鋭い円錐歯が1列に等間隔に並び、内側には小円錐歯が密生する。鋤骨の歯帯の幅は狭く、V字型。口蓋骨および舌骨に歯はない。側線は完全で、鰓蓋上方から尾柄にかけてはいる。

色彩 生鮮時の色彩 一側線よりも上方の体側、両唇、前鰓蓋骨後縁、胸鰭、腹鰭の鰭膜および臀鰭軟条は赤色。体側は赤みがかった銀色で、体側下部および体腹面は一樣に青緑がかった銀色。背鰭および尾鰭はオレンジがかった赤色。腹鰭鰭条および臀鰭鰭膜は無色透明。虹彩は黄色がかった赤色で、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 スリランカからサモアにかけてのインド・西太平洋に分布する (Anderson, 1981; Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001)。国内では伊豆諸島と沖縄諸島以南の琉球列島 (吉野, 1984; 島田, 2013) および鹿児島県トカラ列島 (本研究) から記録されている。

備考 トカラ列島産の標本は、鋤骨の歯帯の幅が狭く、V字型であること、背鰭に深い欠刻があること、背鰭棘条数および背鰭軟条数がそれぞれ 10, 11 であること、上顎骨が被鱗すること、背鰭および臀鰭基底部分が被鱗しないことなどが Allen (1985) や Anderson and Allen (2001) によって定義された *Etelis* 属の標徴と一致した。また、総鰓耙数が 33 であること、背鰭前方鱗数が 18 であること、尾柄周列鱗数が 25 であること、有孔側線鱗数が 50 であること、主上顎骨後端が眼の中央下よりも後方に位置し、瞳孔後縁下を越えることなどの特徴が Anderson (1981) や Allen (1985), Anderson and Allen (2001), 島田 (2013) の報告し

た *Etelis radiusus* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。また鹿児島県産の計数値および計測値は、マレーシアおよび台湾から採集され、本研究で比較を行った標本の値と近似し (Table 1), また Anderson (1981) の示した *E. radiusus* の計数・計測値ともよく近似した。本種は同属他種とは第 1 鰓弓上総鰓耙数、背鰭前方鱗数、尾柄周列鱗数および有孔側線鱗数がそれぞれ 33–36, 17–19, 25 および 50–51 であること、主上顎骨後端が目の中央下またはそれより後方に位置すること、鋤骨の歯帯の幅は狭く、V字型であることなどで識別される (Anderson, 1981; Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013)。

Etelis radiusus はスリランカおよびパプア・ニューギニアから得られた体長 55–427 mm の 3 個体に基づき Anderson (1981) によって記載された。吉野 (1984) は琉球列島から、日本における本種の標本に基づく初めての記録を報告し、同時に本種に対して標準和名オオクチハマダイを提唱した。その後、三浦 (2012) は本種が沖縄島近海で深海釣りによってまれに漁獲され、アイノコマチと称されることを報告した。島田 (2013) は本種を伊豆諸島から報告した。また、本種と考えられる個体の写真は奄美大島やトカラ列島、高知県室戸岬などからインターネット上で報告されているが、標本として保管されていない。本報告が本種の標本に基づく鹿児島県における初めての記録となる。

比較標本 オオクチハマダイ *Etelis radiusus* 2 個体: KAUM-I. 22065, 体長 346.0 mm, マレーシア・サバ州・コタキナバル沖 (コタキナバルの市場で購入); KAUM-I. 39196, 体長 174.0 mm, 台湾高雄沖, 釣り (高雄の市場で購入)。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様にも多大なご協力を頂いた。以上の方々

謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とそその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

引用文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 6: 1–208.
- Anderson, W. D. 1981. A new species of Indo-west Pacific *Etelis* (Pisces: Lutjanidae), with comments on other species of the genus. *Copeia*, 1981 (4): 820–825.
- Anderson, W. D. and Allen, G. R. 2001. Lutjanidae. Snappers (Jobfishes). Pages 2840–2918, in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 島田和彦. 2013. フェダイ科. Pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 吉野哲夫. 1984. オオクチハマダイ(新称). P. 162, pl. 153-K. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.